

# オオハクチョウ

*Cygnus cygnus*

カモ科・冬鳥



オオハクチョウ

## 名前の由来

大きなハクチョウの意。ハクチョウは白鳥で白い鳥。古くは「くぐひ」「しらとり」「おほとり」「たづ」とも呼ばれた。漢字名：大白鳥

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(葦原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）140cm。首が長く全身白色。幼鳥は灰色が混じる。

声：水上や地上では「コオー、コオー」と優しい声で鳴いてからお互いに首を上下させて、「コホーコホー」と騒がしく鳴き交わす。オスとメス同士で、あるいは家族同士も「コーコー」と柔らかな鳴き方であいさつを交わす。

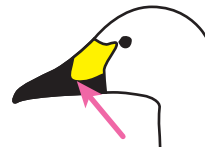
飛んでいるときには「グァーン」とやや濁った声で鳴くことが多いという。

類似種と区別点：コハクチョウ。

コハクチョウは体が少し小さい。またくちばし黄色部が、オオハクチョウではくちばし半ばより先に突き出すようにとがっているのに対し、コハクチョウでは丸く、小さい。



オオハクチョウのくちばし黄色部が突き出ている



コハクチョウのくちばし黄色部が丸くなっている

## 生息環境・分布

河川、湖沼、潟湖、水田、内湾、入り江などに生息する。

十勝には10月～4月にくる冬鳥。

分布：ユーラシア大陸の高緯度地方に繁殖分布し、冬は同大陸南部のあちらこちらに渡って過ごす。

日本には北海道から九州までの各地に冬鳥として渡来する。北海道（十勝でも）では冬鳥。各地の海岸や河川中・下流部、湖沼に渡来し、餌付けの普及にともない越冬する個体がかかり多くなった。渡りのときには山間部のダム湖など

に飛来することがある。

十勝では十勝川温泉白鳥護岸、帯広川下流などが代表的な越冬地として知られる。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
ユーラシア高緯度(繁殖期)												

## 食性・他生物との関わり

水草（内湾ではアマモ、湖ではヨシやガマなど）の葉・茎・地下茎・根茎・種子・果実などを餌とする。

地上を歩きながらついでに草の穂をしごいたりし、水面上でくちばしをグチャグチャと動かしてこしとったりもする。あるいは浅い水中に長い首を突っ込んだり、逆立ちの姿勢で上半身を入れたりして、水底の草や堆積物をついばむこともする。

人による給餌（パンくず、茶殻穀類など）にもよく集まる。



上半身を水に入れて採餌するオオハクチョウ

## 繁殖生態

日本では基本的に繁殖を行わず（→興味深い話の項参照）ユーラシア大陸の高緯度地方で繁殖する。

繁殖期は5～7月で、一夫一妻で繁殖する。

巣は湿原の水に浸かるところに水草の葉や茎を積み重ねて作る。直径3m、高さ50～70cmにもなる。

オスは巣材を渡し、メスが巣を作り、産座には自分の綿羽を敷くという。

1つの巣には4～7個の卵が生まれ、メスのみが抱卵して35～42日くらいでふ化する。

## 興味深い話

■標識調査で11年10ヶ月生存という記録がある。

■平成15年（2003）6月、ウトナイ湖でオオハクチョウのヒナ2羽の誕生が確認された。国内でのオオハクチョウの自然繁殖例は非常に珍しい。

■ヒナは両親の世話を受けて育ち、78～96日くらいで飛べるようになるという。親は激しくヒナを守ろうとする。

■繁殖に成功したものは家族群を作って換羽地へ、また越冬地へ向かう。日本などの越冬地では様々な大きさの群れを作り、ねぐらでは大群にもなるが、家族は崩さない。

■家族間の絆が深く、群れの中にも家族は崩さず、冬の群れの中で家族間の一連のディスプレイ（他の個体に対する誇示行動）がしばしば見られる。

■日本へ渡来する数は全国で1万羽前後だといわれる。

■十勝地方のアイヌ語では「レタッチリ」という。



オオハクチョウの群れ。若鳥は灰色である

## 配慮事項

冬期でも凍結しない開水面を必要とする。

### 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985（1995 2版21刷）

「原色日本野鳥生態図鑑（水鳥編）」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、（財）日本野鳥の会 1982（1994増補版7刷）

「日本野鳥の会全国一斉調査結果報告」日本野鳥の会研究部、S T R I X 3 1985

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978

「山川弘氏からの聞き取り記録」内田祐一（未発表）

### インターネットページ

「ようこそウトナイ湖野生鳥獣保護センターへ」

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kankyo-seikatu/utonaihokp/index.htm>

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類  
ワシ・タカ